

次期教育大綱及び教育振興基本計画の策定状況について

1 概要

- ・現在の「北九州市教育大綱」(以下「教育大綱」という。)と、「第2期北九州市子どもの未来をひらく教育プラン(教育振興基本計画)」(以下「教育プラン」という。)の計画期間が、共に今年度末で終了する。
- ・こども基本法を踏まえて子どもの意見を聴取し、策定中の「市の新ビジョン」とも歩調を合わせながら、次期教育大綱及び教育プランの策定を進める。

教育大綱・・・市長が、教育等の目標・施策に関する根本的な方針について、「総合教育会議」の場で教育委員会と協議・調整した上で定めるもの(地方教育行政法)
教育プラン・・・教育大綱を踏まえ、教育の基本的な計画(教育振興基本計画)として教育委員会が定めるもの(教育基本法)

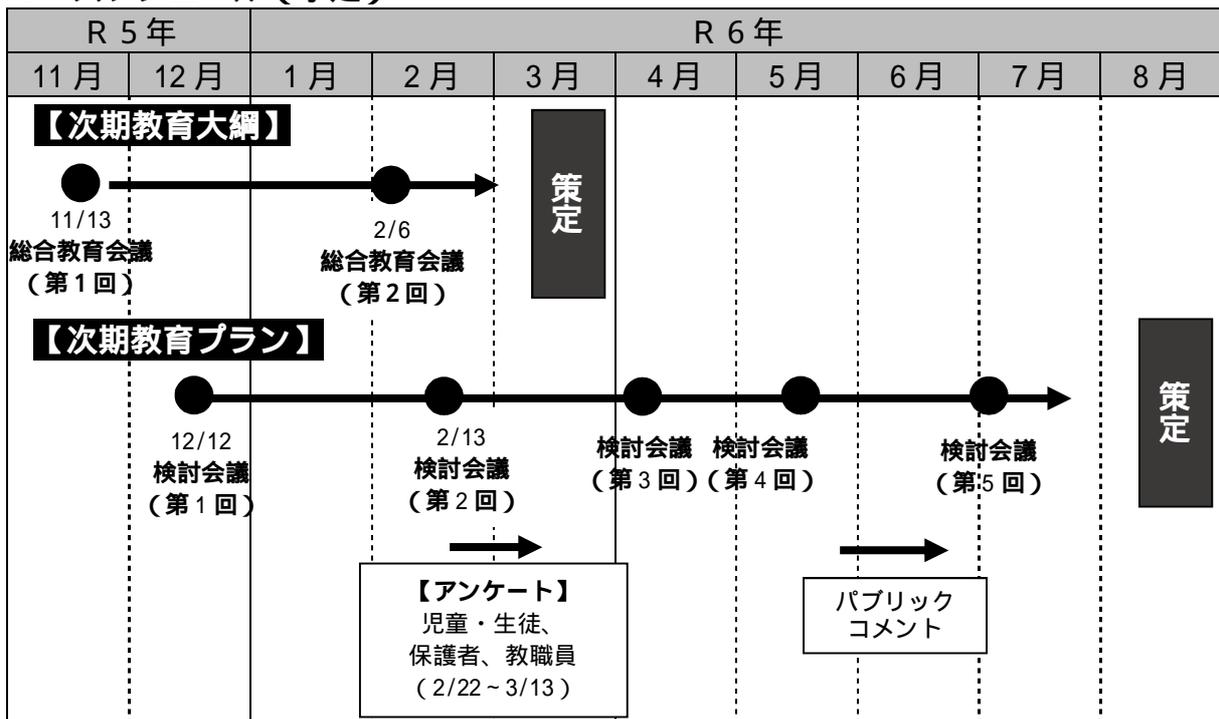
2 次期教育大綱の策定(総合教育会議) 資料1～3

- ・第1回(令和5年11月13日)の協議を踏まえ、第2回(令和6年2月6日)で最終案を提示。
- ・令和6年3月中に策定予定。

3 次期教育プランの策定(次期教育プラン検討会議) 資料4～6

- ・第1回(令和5年12月12日)ではプランの方向性、第2回(令和6年2月13日)では、プランの全体構成について議論。
- ・児童生徒、保護者、教職員にアンケートを実施。(令和6年2月22日～3月13日)
- ・今後、KPI等について議論したのち、パブリックコメントを実施。
- ・令和6年8月に策定し、9月議会で報告する予定。

4 スケジュール(予定)



<p>社会課題</p> <p>少子高齢化・人口減少 将来の予測が困難 グローバル化 Society5.0社会の到来 価値観の多様化</p>	<p>子ども</p> <p>子どもの抱える問題の多様化・複雑化 (不登校、特別支援、キワッド、外国人) 自己肯定感の低下</p>	<p>教職員</p> <p>なり手不足 (大量退職や受験者の減少、働き方改革) 子どもが抱える多様な問題への対応</p>	<p>教育のミッション</p> <p>幅広い知識・教養 豊かな情操と道徳心 健やかな身体 個人の価値の尊重 自主・自律 ジェンダー平等 自他の敬愛・協力 郷土愛 他国の尊重</p> <p>時代の要請</p> <p>社会の変化に対応できる人材の育成 誰一人取り残されない共生社会 こども基本法の理念「こどもまんなか」の実現</p>
<p>各主体が抱える課題</p>		<p>保護者・地域・企業</p> <p>家庭を取り巻く環境の変化や少子化 希薄化する地域のつながり</p>	<p>不易流行</p>

こども等の声

児童生徒・保護者アンケート

【なりたい大人】

思いやりがある 自分の考えを持つ
色々なことに挑戦する 生きがいを持つ

【なりたい大人になるためには】

将来の夢や目標を持つ 周りの人を大切にする

有識者

【新ビジョン検討会議】

失敗しても何度でもチャレンジさせることが重要
これからは哲学・思考力が重要

【総合教育会議（第1回）】

社会の構成員としてリスペクトされていることが大切
多様性の尊重や、こどものレジリエンスが重要
教職員のウェルビーイングの確保が教育の根本

キーワード（第1回会議）

こどもまんなか

一人ひとりが主人公

こどものウェルビーイングの確保
未来を創る能力・レジリエンスの獲得
安全・安心な居場所づくり
教職員のウェルビーイングの確保

こどもの意見の尊重
こどもの違いへの理解

誰ひとり取り残さない学び
先端的な学び

失敗を恐れず挑戦する力
こどもの可能性を引き出す

教職員のポテンシャル
地域・企業との連携

次期教育大綱～「こどもまんなか」で、質の高い教育環境の充実を～

3 誰一人取り残さない学びと、
先端的な学びを進める

こどもの可能性を引き出す



5 地域とのつながりの中で、
こどもを見守り、支え育てる



1 全てのこどもにとって
「居心地の良い学校」をつくる

2 失敗を恐れず
挑戦し、志と
人間力を
高められる
環境をつくる

4 学校の
自律性と
教職員の
ウェルビーイング
を高める

今のこどもたちが大人になったときに…

正解のない時代に生きる力
(未来を創る能力・レジリエンス)

自分なりの価値観・哲学
他者への思いやりや多様性の理解
自分で問いを見つけ、解決する力
本来持っている可能性の発揮

個々のウェルビーイング

社会に新たな価値を創造し、
「新たな解」を生み出す
様々な社会課題を解決し、
地域・国際社会に貢献する

社会のウェルビーイング

次期教育大綱(案)

北九州市教育大綱の策定にあたって

北九州市は、色合いが異なる5市が対等合併し、歩みを進めてきたことに表れているように、多様な歴史や文化、暮らしが入り混じりながら、お互いを受け入れ発展してきた包摂性を持つ都市です。

また、市民が先頭に立って公害克服に取り組んだことが環境先進都市として、さらにSDGs未来都市へと変貌を遂げ、日本社会全体が持つ課題の一步先にチャレンジし、突き進んできた都市です。

これらは、北九州市に息づく市民性であり、この市民性を生かしつつ、子どもたちが、今後国内外で活躍し、自らの、そして地域や社会全体のウェルビーイング¹を実現していくために必要なのは「教育」です。

コロナ禍を経て、教育を取り巻く環境は今、劇的に変化しています。少子高齢化やSociety5.0²時代の到来、グローバル化・デジタル化の進展といった社会の大きな変化がある中で、子どもたちが抱える課題も複雑化・多様化しています。

教育には、教育基本法が定める普遍の使命をもとに、こうした新たな時代の要請を取り入れていく姿勢が基調にあります。また、最近では、子ども基本法が提唱する「こどもまんなか」や、SDGsの精神の一つである「質の高い教育をみんなに」など、子どもたちにとって最善の利益を考える理念が改めてクローズアップされています。

社会が急速に変化し、価値観やライフスタイルの多様化がいつそう進む中で、一人ひとりが自己実現を図っていける教育環境をつくる必要があります。学校現場の最前線で活躍する教職員や地域の方々、そして何より子どもたち自身がこの教育環境を創り上げていくため、一丸となって取り組むための道しるべとして、この「教育大綱」を定めます。

令和6年(2024年)3月〇日

北九州市長 武内 和久

北九州市では、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を図ってまいります。

「こどもまんなか」とは、「こどもの視点や考え方を大切すること」と、「こどもたちを、社会を構成する存在として尊重すること」と考えています。

次の5つの柱に基づいて、こども一人ひとりの中にある思いや考えに耳を傾け、それぞれの個性や多様性を尊重し、こどもたちが持っている可能性を發揮していける教育を推進します。

1 全てのこどもにとって、「居心地のよい学校」をつくります。

こどもが安全に安心して過ごすことができ、受け入れられていると感じることができる居場所を、学校をはじめとする社会全体でつくり、セーフティネットとしての役割を果たせるようにします。

2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります。

変化が激しく正解がないこれからの時代には、自分で問いを見つけ、解決していく力が求められます。

結果よりプロセスを大事にする「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、様々な経験や挑戦をできる場を整えることで、こどもたちがいきいきと育ち、自分なりの価値観・哲学や、周りの他者を思いやりながら協働する力、転んでも立ち上がる力などを身につけて人間力を高め、本来持っている可能性を發揮できるよう、こどもの成長を後押しします。

3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進めます。

多様なこどもの状況に応じた学びを進めるとともに、多様な他者と学び合う「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を進めることで、誰一人取り残さず、全てのこどもたちの可能性を引き出し、学齢期を経過した人も含め、学びの機会を保障する環境を整えます。

また、グローバル化やデジタル化が進展する、これからの新しい時代に対応するための学びや、義務教育9年間を見通した取組みを進めます。

4 自律的で特色のある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます。

こどものウェルビーイングを実現するためには、教職員のウェルビーイングを確保することが必要です。

教職員のなり手不足や若年層の急増、こどもが抱える問題の多様化・複雑化、働き方に対する見直しなど、様々な課題に直面する中で、教職員の確保・育成、「先生を一人にしない」取組みと併せて、外部人材や地域と連携しながら学校づくりを進めることで、働き甲斐があり、誇りを持ってこどもに向き合える職場をつくります。

5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てます。

学校と家庭や地域、企業、関係機関が連携して、社会全体でこどもを見守り、健やかに育む環境づくりを進めます。地域や社会に学校を開き、学校運営への参画を進め、また、多様な人材の活用によって様々な学びや体験ができる機会の創出を図ります。

さらに、そうした地域とのつながりが、こどもたちのアイデンティティを涵養し、自らを育ててくれた地域や歴史に愛着や誇りを抱くことによって、郷土愛の醸成、さらには地域の課題に主体的に取り組み、貢献する人材の育成につながることを目指します。

(参考)

5つの柱に基づく具体的な取組

1 全ての子どもにとって、「居心地のよい学校」をつくります。

こどもを枠にはめず、一人ひとりのこどもの違いを尊重します。
こどもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるように育てます。
学校の中でも外でも、安全で安心して過ごせる居場所をつくります。

- ・専門人材の確保と活用(スクールカウンセラー、
スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー³など)
- ・未来を見据えた教育環境の整備(バリアフリー、ZEB⁴・災害対応、
学校規模適正化、老朽化対策、長寿命化)
- ・多様な学びの機会の確保、サードプレイス⁵の確保

2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります。

こどもを「社会の構成員」として尊重します。こどもの声を聴き、学校の運営に活かします。
こどもや教師自身も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整えます。
こどもの「なぜ?」と思う気持ちを大事にし、好きなことに夢中になれる環境を作ることで、知的好奇心を高め、思考力を育てます。
社会に開かれた教育、学校外の学びや、放課後活動の充実を進めます。

3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進めます。

不登校児童生徒の支援、インクルーシブ教育システム⁶の実現、夜間中学の設置運営などを進めます。
人権、ジェンダー平等、多様性の理解を深め、他者を尊重する態度を養います。
グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成と、国際理解教育の推進を図ります。
個々の才能を伸ばすため、ICT⁷を日常的に活用し、リアルとデジタルの効果的な融合を進めます。
探究学習やSTEAM教育⁸など、文理の枠を超えた教科横断的な学びの充実に取り組みます。

4 自律的で特色のある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます。

教職員がこども一人ひとりの学びを最大限に引き出すため、専門的知識や実践的指導力、情報活用能力、ファシリテーション能力⁹など、時代の変化に対応して求められる資質・能力を身につけます。

働き方改革やDX¹⁰の推進、ジェンダー平等、専門人材の活用、職場における心理的安全性の確保を通じて、働きやすく、教職員同士がつながり、力を発揮できる職場づくりを進めます。

学校が、児童・生徒や地域との信頼関係のもとで自律的で特色のある学校づくりを進められるよう、人材の確保・育成や職場環境づくり等、教育委員会がバックアップしていきます。

5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てます。

地域・企業、NPO等と連携し、地域(自然・歴史)を知る機会の創出、サードプレイスの確保、キャリア教育・STEAM教育の推進、放課後活動の充実、部活動の地域移行等に向けて取り組みます。

コミュニティ・スクールの充実・拡大を通じて、学校と地域との連携による学校運営を進めます。

教育に関する情報を社会全体で共有し、理解を深めながら取り組みを進めていけるよう、情報を積極的に発信していきます。

用語解説

1 ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。また、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む、包括的な概念。【教育振興基本計画】

2 Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会【内閣府】

3 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー

SC(スクールカウンセラー)

児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士などの「心の専門家」

SSW(スクールソーシャルワーカー)

社会福祉士または精神保健福祉士の資格を有し、不登校や暴力行為、児童虐待など、問題を抱える児童生徒が置かれた複雑な家庭環境に働きかけ、関係機関との連携の強化を図る職員。

スクールロイヤー

児童生徒の指導上の諸問題や、保護者との間でのトラブル等、学校からの相談に対し、中立的な視点から法的助言を行うことで、早期に問題の解決を図る弁護士。

4 ZEB

Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。【環境省】

5 サードプレイス

学校でも、家庭でもない、居心地のいい第三の居場所【厚生労働省】

6 インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。【文部科学省】

7 ICT

情報通信技術(Information and Communication Technology)の略。情報・通信に関連する技術一般の総称。IT(Information Technology:情報技術)とほぼ同義に用いられるが、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。

8 STEAM教育

数理教育に創造的教育を加えた教育理念。科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・リベラルアーツ(Arts)、数学(Mathematics)の頭文字をとったもの。

9 ファシリテーション

知識や解決策を提示するのではなく、多様な意見や学び合いを引き出し、子ども自らが新たなアイデアや問題解決策を発見していけるように導くこと。

10 DX

Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)の略。最先端のデジタル技術を企業や行政などに広く浸透させることで、人々の暮らしをより便利で豊かなものへと変革すること。

令和 5 年度 北九州市総合教育会議（第 2 回） 意見まとめ

1 市長**(1) 総論**

次期教育大綱には 5 本の柱があり、学校、児童生徒のマインド、児童生徒のスキル、教職員、地域という構造にしている。

(2) こどもまんなか

「こどもまんなか」を考える上では、こどもの持っている可能性・特性を尊重することと、こどもも大人のように扱おうという思いを両立する必要がある。

(3) 「2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります」

若い人がチャレンジできる場を与え、失敗しても支えることが見えるようにしたい。こどもが自分なりの価値観・哲学を持つため、人との関わりを増やし、色々な経験をすることが大切。先生や地域の人との対話の機会を増やすことが、一つの切り口になる。学校教育は、摩擦を含めた他者との協働の場、他者を介しての自らの発見の場、レジリエンスを獲得する場と考えている。うまくいかない時、どう立ち直るかが大切。

(4) 「5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てます」

ここに「郷土愛の醸成」を掲げた理由の 1 つは、地域に愛着があるからこそ、公助や互助が機能するということ。もう 1 つは、自分を育んだ地域に向きあうことで、自分自身の存在に思いを巡らすことができるということ。

2 教育委員**(1) 総論**

この大綱案は、これまでの議論が丁寧に反映されており、目指すべき方向性が明確になっている。

教職員、保護者、地域住民も変わっていかないといけない。機会を見つけながら、みんなが一緒になって考えていくような場面を大切にすることが必要。

(2) こどもまんなか

大人側も、こどもを自由にさせた上で、責任を取る勇気を持つ必要がある。

(3) 「2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります」

レジリエンスという言葉に、一人で乗り越える力、支え合って乗り越える力、学校や周囲の大人が支えていく力が集約されている。

「自分なりの価値観・哲学」に注目している。チャレンジするためには、自分を信じる力が必要であり、そこに結びつけるのが、今までの教育では難しかったところ。

こども一人ひとりが生まれながらに持っている好奇心や個性といった「生きる力」は、大人が信じて磨き上げれば、自然と培われていく。そのためには、大人の意識改革も必要で、失敗する中から成長するという意識が大人や教職員にも必要。

(4) 「4 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます」

この大綱案では、教職員に高い指導力が求められる一方、教職員が尊重され、健康を保ちながら、こどもの教育に向き合っていくという要素が盛り込まれていることに大きな意味がある。

ミッション	主な施策	KPI	関連する計画等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">全ての児童もによって「居心地のよい学校」をつくる</p>	<p>子どもを枠にはめず、一人ひとりの子どもの違いを尊重する</p> <p>子どもの視点にたった教育施策の推進（ワークシグから意見聴取や対話） 教職員の育成・資質の向上 （若手教員への知識・技術の伝承向上、ミドルゲへの職務別研修、講習会等の体系化） 地域との連携（コミュニティスクールを通じた取組の共有） 広報・広聴活動（広報誌やホームページ、SNSを通じた情報発信）</p>	<p>次回検討</p>	<p><計画等> 北九州市教育委員会人材育成基本方針及びアクションプラン【H29.4策定、R5.12改訂】</p>
	<p>子どもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるよう育てる</p> <p>生きる力を身につける教育の推進（他者と連携・協働しながら社会を生き抜く力の育成） 生命の安全教育の推進（自分、他者、一人一人を尊重する態度の育成） 人権教育の推進（自分、他者の大切さを認める人権感覚の育成） 道徳教育の推進（自尊感情や社会貢献意識の醸成と豊かな人間性の育成）</p>		<p><計画等> 北九州子どもつながりプログラム追加版【R3.4策定】</p>
	<p>学校の中でも外でも、安全で安心して過ごせる居場所をつくる</p> <p>【専門人材の確保】 教職員の負担軽減による教育環境の充実（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポートスタッフなど） 不登校・いじめ対策の強化（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど） 特別支援教育の推進（看護職員等の配置、外部専門家の活用促進など）</p> <p>【未来を見据えた教育環境の整備】 学校施設の維持管理（学校施設の維持管理・長寿命化） 未来を見据えた教育環境の整備（学校規模適正化やトイレ洋式化、バリアフリー化、ZEB化）</p> <p>【多様な学びの機会、サードプレイスの確保】 【再掲】不登校・いじめ対策の強化 （不登校やいじめの未然防止、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置、相談体制の充実） 学びの機会の確保（夜間中学校による学びの保障、ステップアップルーム、オンライン上の教育支援室の充実） 市民の学びを支える図書館の機能強化（立地特性を活かしたイベントや情報発信）</p>		<p>【専門人材の確保】 <計画等> （改訂版）北九州市特別支援教育推進プラン【H29.1策定、R5.2改訂】</p> <p>【未来を見据えた教育環境の整備】 <計画等> 北九州市立小・中学校の学校規模適正化の進め方【H29.3策定】 学校施設長寿命化計画【H30.3策定】</p> <p><最近の動き> 市民の安全・安心を守る老朽化対策チーム【R5.5～】 北九州市学校規模適正化の進め方検討会【R5.7～】</p> <p>【多様な学びの機会、サードプレイスの確保】 <計画等> 北九州市いじめ防止基本方針【H26.6策定、R5.3改定】 北九州市子ども読書プラン（第4次計画）【R3.3策定】</p> <p><最近の動き> 不登校児童生徒のための教育機会確保に係る検討会議【R5.8～】 「これからの図書館のあり方」に関するアンケート【R5.8～9実施】 学びの場と居場所づくりのアンケート【R5.10実施】 夜間中学校の開校【R6.4】</p>

次期「教育プラン」の全体構成

ミッション	主な施策	KPI	関連する計画等
子どもが失敗を恐れず挑戦し、 志と人間力を高められる環境をつくる	1 子どもを「社会の構成員」として尊重し、子どもの意見を聴いて学校の運営に活かす 【再掲】教職員の資質向上 <small>(若手教員への知識・技術の伝承向上、ミドルゲ-への職務別研修、講習会等の体系化)</small> 【再掲】子どもの視点にたった教育施策の推進 <small>(ステークホルダ-からの意見聴取や対話)</small>	次回検討	
	2 子どもも教職員も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整える 【子ども】 【再掲】生きる力を身につける教育の推進 <small>(社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担う力の育成)</small> アントレプレナーシップ教育による人材育成 <small>(効果的な体験プログラムの実施によるアントレプレナーシップ教育の推進)</small> 【教職員】 性別に関わらない人材育成、組織風土の醸成 <small>(管理職やミドルゲ-の確保、管理職を中心とした意識改革、チャレンジを応援する組織風土の醸成)</small>		<計画等> 北九州市教育委員会人材育成基本方針及びアクションプラン【H29.4策定、R5.12改訂】
	3 子どもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる 【再掲】生きる力を身につける教育の推進 <small>(学習指導要領に基づく指導の充実など、知・徳・体のバランスの取れた子どもの人格の形成)</small> 学力向上の推進 <small>(学力の分析や補充学習の推進を通じた主体的・対話的で深い学びの実現)</small> 特色ある教育環境の整備 <small>(探究学習を通じた想像力・表現力・課題解決能力の向上)</small> 放課後における子どもたちの活力強化の推進 <small>(遊びと学びを掛け合わせた新たな活動の推進)</small>		<計画等> 北九州市学力・体力向上アクションプラン第2ステージ(延長版)【R4.3策定】 <最近の動き> 北九州市部活の未来を考える会【R5.5~】 部活動地域移行に関するアンケート【R5.6実施】
	4 社会に関かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める 【再掲】放課後における子どもたちの活力強化の推進 <small>(遊びと学びを掛け合わせた新たな活動の推進)</small> 【再掲】市民の学びを支える図書館の機能強化 <small>(市民の学びや課題解決の支援、学校と連携した読書活動の推進)</small>		<計画等> 北九州市子ども読書プラン(第4次計画)【R3.3策定】 <最近の動き> 北九州市部活の未来を考える会【R5.5~】 部活動地域移行に関するアンケート【R5.6実施】 「これからの図書館のあり方」に関するアンケート【R5.8~9実施】

次期「教育プラン」の全体構成

ミッション	主な施策	KPI	関連する計画等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める</p>	<p>確かな学力と健やかな体を育成する</p> <p>【再掲】学力向上の推進（学力の分析や補充学習の推進を通じた、主体的・対話的で深い学びの実現） 体力向上の推進（体力テストの結果を踏まえた授業改善、運動が苦手な児童生徒の興味・関心の向上） 健康の保持（学校医等の専門職や家庭と連携した、むし歯や肥満痩身の防止） 学校給食の質の向上（学校給食を通じた食育の推進） 小中一貫・連携教育の推進（小中一貫教育の校区における取組の検証、成果と課題の発信）</p>	<p>次回検討</p>	<p><計画等> 北九州市学力・体力向上アクションプラン 第2ステージ（延長版）【R4.3策定】 学校における歯と口の健康づくり推進計画【R4.3策定】</p> <p><最近の動き> 学校給食に関するアンケート【R5.7実施】</p>
	<p>不登校児童生徒の支援やインクルーシブ教育システムの実現、夜間中学の設置運営などを進める</p> <p>【再掲】不登校・いじめ対策の強化（不登校やいじめの未然防止、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置、相談体制の充実） 【再掲】特別支援教育の推進 （一人ひとりに着目した指導・支援の充実、特別支援学校の整備、校内支援体制の構築、外部人材の活用、適切な就学先の決定） 【再掲】学びの機会の確保（夜間中学校による学びの保障、ステップアップルーム、オンライン上の教育支援室の充実） 経済的な課題への対応（就学援助などの経済的支援、補充学習を活用した学習支援）</p>		<p><計画等> 北九州市いじめ防止基本方針【H26.6策定、R5.3改定】 （改訂版）北九州市特別支援教育推進プラン【H29.1策定、R5.2改訂】 ○元気発進！子どもプラン（第3次計画）【R2～6年度】</p> <p><最近の動き> 不登校児童生徒のための教育機会確保に係る検討会議【R5.8～】 学びの場と居場所づくりのアンケート【R5.10実施】 夜間中学校の開校【R6.4】</p>
	<p>人権、ジェンダー平等、多様性の理解を深め、他者を尊重する態度を養う</p> <p>【再掲】生命の安全教育の推進（自分、他者、一人一人を尊重する態度の育成） 【再掲】人権教育の推進（自分、他者の大切さを認める人権感覚の育成や北九州子どもつながりプログラムを活用した人間関係作り） 【再掲】道徳教育の推進（自尊感情や社会貢献意識の醸成と豊かな人間性の育成）</p>		<p><計画等> 北九州子どもつながりプログラム追加版【R3.4策定】</p>
	<p>グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成と国際理解教育の推進を図る</p> <p>外国語教育の推進（外国語指導助手（ALT）の配置等の指導体制の充実、リディングスクールにおける成果の展開） 最先端の理工系教育の推進（授業や教科課程外における探究学習、STEAM教育） 本市の特色を活かした教育活動の推進（SDGsの理解促進）</p>		
	<p>ICTを日常的に活用し、リアルとデジタルの効果的な融合を進める</p> <p>ICTを活用した教育環境の整備（デジタル教科書、オンライン授業、個々の才能を伸ばす高度な学び）</p>		
	<p>文理の枠を超えた教科横断的な学びを充実する</p> <p>【再掲】アントレプレナーシップ教育による人材育成（若い起業家との交流やワークショップなど、効果的な体験プログラムの実施） 【再掲】最先端の理工系教育の推進（授業や教科課程外における探究学習、STEAM教育） 【再掲】放課後におけるこどもたちの活力強化の推進（遊びと学びを掛け合わせた新たな活動の推進） 【再掲】市民の学びを支える図書館の機能強化（市民の学びや課題解決の支援、学校と連携した読書活動の推進）</p>		<p><計画等> 北九州市子ども読書プラン（第4次計画）【R3.3策定】</p> <p><最近の動き> 北九州市部活の未来を考える会【R5.5～】 部活動地域移行に関するアンケート【R5.6実施】 「これからの図書館のあり方」に関するアンケート【R5.8～9実施】</p>

次期「教育プラン」の全体構成

ミッション	主な施策	KPI	関連する計画等
高める 教職員のウェルビーイングを 自律的で特色ある学校づくりを進め、	1 教職員が、時代の変化に対応して求められる資質・能力を身につける 【再掲】教職員の育成・資質の向上 <small>(若手教員への知識・技術の伝承向上、ミドル・グ-への職務別研修、講習会等の体系化)</small> 【再掲】教職員の負担軽減による教育環境の充実 <small>(校長等のマネジメントによる「チーム学校」の推進)</small> 【再掲】ICTを活用した教育環境の整備 <small>(ICTを活用した教員の指導力向上)</small>	次回検討	<計画等> 北九州市教育委員会人材育成基本方針及びアクションプラン 【H29.4策定、R5.12改訂】 学校における業務改善プログラム <small>(第3版)</small> 【R5.2策定】
	2 働きやすく、教職員同士がつながり、力を発揮できる職場をつくる 【再掲】教職員の負担軽減による教育環境の充実 <small>(スクール・サポート・スタッフの配置、専門人材の活用、校務のデジタル化や学校DXを通じた働き方改革)</small> 【再掲】性別に関わらない人材育成、組織風土の醸成 <small>(管理職やミドル・グ-の確保、管理職を中心とした意識改革、チャレンジを応援する組織風土の醸成)</small> 【再掲】ICTを活用した教育環境の整備 <small>(次世代校務DXを通じた教育データの利活用、Edtechを活用した働き方改革)</small> 【再掲】不登校・いじめ対策の強化 <small>(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど)</small> 【再掲】特別支援教育の推進 <small>(外部人材の活用)</small>		
	3 自律的で特色のある学校をつくる 【再掲】教職員の育成・資質の向上 <small>(若手教員への知識・技術の伝承向上、ミドル・グ-への職務別研修、講習会等の体系化)</small> 【再掲】教職員の負担軽減による教育環境の充実 <small>(校長等のマネジメントによる「チーム学校」の推進)</small> 【再掲】子どもの視点にたった教育施策の推進 <small>(ステークホルダーからの意見聴取や対話)</small>		

次期「教育プラン」の全体構成

ミッション	主な施策	KPI	関連する計画等
地域とのつながりの中で、 社会全体で子どもを見守り支え、 育てる	1 地域・企業、NPO等と連携した教育を進める 【再掲】アントレプレナーシップ教育による人材育成 （若い起業家との交流やワークショップなど、効果的な体験プログラムの実施） 【再掲】放課後における子どもたちの活力強化の推進 （部活動の地域移行、地域や企業と連携した活動の推進） 【再掲】最先端の理工系教育の推進（企業や大学、研究機関等と連携した探究学習、STEAM教育） 【再掲】不登校・いじめ対策の強化 （不登校児童生徒の親の会やフリースクールとの連携強化、いじめ防止における関係機関との連携） 【再掲】本市の特色を活かした教育活動の推進 （環境教育やSDGsの理解促進、企業や人材と連携した教育の推進）	次回検討	<最近の動き> 北九州市部活の未来を考える会【R5.5～】 部活動地域移行に関するアンケート 【R5.6実施】
	2 学校と地域の連携による学校運営を進める 【再掲】子どもの視点にたった教育施策の推進（ステークホルダーからの意見聴取や対話） 【再掲】地域との連携（スクールパートナー、コミュニティスクール） 家庭との連携（PTAなどと連携した生活習慣等の改善、家庭学習チャレンジハンドブックを活用した家庭学習の充実）		
	3 教育に関する情報を社会全体で共有できるよう積極的に発信する 【再掲】子どもの視点にたった教育施策の推進 （ステークホルダーからの意見聴取や対話、PDCAサイクルの確立、EBPM） 【再掲】広報・広聴活動（広報誌やホームページ、SNSを通じた情報発信）		

次期教育プラン検討会議 構成員意見（まとめ）

第1回（令和5年12月：次期プランの方向性について）

- 安心して話せる部分に重きを置くと、こどものウェルビーイング向上につながる。
こどもに何の懸念も与えず、大人がこどもの意見を徹底的に聞く姿勢が必要。
- こどもの「意見の尊重」と「違いへの理解」という視点を次期プランに入れるべき。
- 問題発生時にチームで解決するプロセスや協調性を重視するとともに、安心して失敗できる場を提供することが重要。
- 学校に様々な人材が結集し、ともにこどもの教育を担う体制が必要。
- 環境やSDGsなどの豊富な体験ができることが、本市の強み。社会の中で学ぶ経験学習と、それを言語化できる能力が重要。
- 総花的ではなく、市としてのスタンスやアクセントが、次期プランには必要。

第2回（令和6年2月：次期プランの全体構成について）

速報

- 人間のベースとなる、普遍的で本質的な教養を育てることが重要であり、健康・体力もまた重要である。
- 今後は、知識を教える教育よりも、答えのない課題を自分で考える力を育てる教育が必要になる。こどもが自ら問いを立て、人と協働して解決する力を育てる「STEAM教育」が重要。
{
 - 数理教育に創造的教育を加えた教育理念。科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・リベラルアーツ(Arts)、数学(Mathematics)の頭文字をとったもの}
- 学校を拠点に、多様な関係者がこどもをまんなかにして支援することが大切であり、地域と学校の橋渡しをする専門人材が必要。また、学校教育だけでなく、家庭教育が担う部分も多いのではないかと。
- プランには、企業の視点も必要。小中学生の頃から多様な主体と協働することが重要であるため、企業による学校教育への関わりも入れるべき。
また、プランの策定にあたっては、企業のニーズも視野に入れた方がよい。
- こどもの居場所を模索し、多様性に対応してくれる先生が増えていて良いことだが、先生ひとりでは、全ての問題を解決できない。教職員のウェルビーイングの観点からも、専門人材を増やすことが必要。また、校長を中心として、長いスパンで組織的に学校を作り上げる必要がある。

次期教育プラン策定に係るアンケートについて（概要）

1 目的

次期教育プランの検討等に活用するため、児童生徒、保護者及び教職員にアンケートを行うもの。

2 期間

令和6年2月22日（木）～3月13日（水）

結果については、第3回の検討会議（4月予定）で報告予定。

3 対象者（市立の全校で実施）

（1）児童生徒（小4～中2）

（2）保護者（小1～中3）

（3）教職員（教育委員会に勤務する、学校採用の職員を含む）

4 設問

（1）児童生徒（保護者）

学校、先生、将来について感じている率直な思いを引き出し、教育プランの策定や、これからの学校運営の進め方の参考とする。

< 児童生徒への質問内容 >

学校ですごす時間について

授業や宿題について

学校という場所について

学校の先生について

あなた自身や周りの人とのこと

学校に伝えたいこと（自由記述）

（2）教職員

学校教育の現状や今後の在り方、自らのウェルビーイング等について調査する。

5 回答方法

1人1台端末等を活用し、原則としてオンラインで回答。

設問内容及びオンライン回答用ページについては、市のホームページに掲載

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kyouiku/02800275.html>

